



(1) 教員採用試験1次試験結果報告

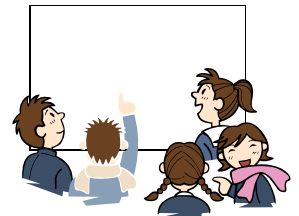
8月上旬に各自治体の1次試験の合格発表がありました。結果は、下記の通りです。1次通過した人は、2次試験でもうひと頑張りしましょう！これまでの面接練習では十分合格ラインに達しているの、自信をもって試験に臨んでください。残念ながら不合格だった人は、今後の進路について相談に来てください。

★合格者数/受験者数

自治体	東京都(昨年限り付)	神奈川県	埼玉県	茨城県	千葉県	川崎市	福岡県	合計
数 学	2/2(3)	1/2	2/3	2/2	1/1	2/2	1/1	11/13(3)
理 科	3/3(2)	1/2		2/2				6/7(2)
合 計	5/5(5)	2/4	2/3	4/4	1/1	2/2	1/1	17/20(5)

★公立1次通過率=85.0% (17/20)

今年もみんな頑張ってくれました。受験生によれば、難問であったり時間が足りなかったりして、数学や理科の専門科目が手ごわかったようです。特に、法政大学に推薦入学した人にとっては、高校受験以来の試験ということで緊張が激しかったようです。今年の特徴は、応募者減少の解決策として、茨城県が42年ぶりに関東地区共通の日程よりも1週間早く1次試験を実施したことです。それにより他の自治体受験者の併願が可能になりました。小金井キャンパスからは4名が受験し、4名とも1次試験を通過しています。是非とも上の表の1次通過した全員が最終合格してほしいと願っています。また、残念ながら1次通過できなかった人も、再受験や私立学校への変更など、最後まであきらめずによりよい進路を探っていきましょう。



(2) 2次試験対策「模擬面接」実施報告

去る7/28(水)、29(木)の2日間で模擬面接を実施しました。元校長で面接官経験のある先生をお二人お招きして、本番さながらの緊張感のある面接を行いました。参加者は、延25名(実13名)でした。「初対面の面接官とのやり取りで新しい視点からの指導・助言をいただき、当日に向けていい練習になった」と終了後の参加者アンケートに多数書いてありました。なかには、1次試験の手応えがよくなり、沈んだ気持ちと闘いながら模擬面接を受けていた人も複数いました。結果から言うと、そんな態度や努力が実ったのか、自分の手応えに反して1次通過できた人が多かったです。「試験は水物。勝敗は時の運」と言います。どんな試験でも「人事を尽くして天命を待つ」心が大切です。また、試験に向かう姿勢や努力も重要ですが、結果が出たときの態度にその人の本質が見えるような気がします。毎年、不合格になると教職課程センターへ報告しない人が若干名います。気持ちは分かりますが、そんなことでいい教員になれるのでしょうか。中学生や高校生が受験に失敗したときに生徒に寄り添えるのは、自らが辛い失敗を体験した教員だけではないでしょうか。激励の言葉は誰でもかけられますが、本当に生徒の悲しみに寄り添い、一緒に悲しみ悩むのはそう簡単ではありません。苦しんでいる生徒に心から寄り添える教員になってほしいです。

(3) 2次対策「個人面接練習」「集団討論練習」について

6/14(月)以来、週3回のペースで「個人面接練習」「集団討論練習」を実施中です。回を追うごとに受け答えが著しく向上しています。8/20(金)まで続きます。どの参加者も大変熱心で意欲的なので、是非とも最終合格してほしいです。

(4) 3・2・1年生向け「教採ガイダンス」の実施予告

9月～10月に予定しています。去年はzoomでしたが、今年は動画配信とします。2・3年生には学習支援システムで、1年生は教職課程を申し込んだときの履修カルテ配布のときにURLをお知らせします。

教採対策「教育時事」講座



教採に合格するためには、教育心理や教育原理、生徒指導や進路指導、教科教育などの教育の不易(不変)な内容についての勉強も大切ですが、「教員の働き方改革」「GIGA スクール構想」「Society 5.0」「SDGs」「令和の日本型学校教育」などの教育の流行(今風)の内容についても理解しておくことが極めて重要です。ここでは、今年受験生の直前整理と来年以降の受験生の基礎知識理解のために教育時事について解説します。

(1)「教員の働き方改革」

- **目的:** ① 授業準備や補習等の学習指導、生徒指導や進路指導など、生徒と関わる業務の充実を図る。
② 授業等に関する教員研修の充実を図る。
③ 教員の心身の健康保持。
- この2つも重要です!**
- **背景:** 過労死レベルと言われている月 80 時間以上の残業を行っている教員が大多数であり、その結果、十分な授業準備や生徒指導ができないだけでなく、教員の研修時間が十分に確保できていない状況にあります。さらには、教員の心身の健康さえ害されています。(＃教師のバトンより)
 - **内容:** タイムカードの導入(勤務時間の把握)、部活動の外部指導員や校務支援員、ICT 支援員の派遣などにより教員の負担軽減が図られつつあります。後述の給特法の改正については検討段階です。
 - **解説:** 法的根拠は、「公立の義務教育諸学校等の教育職員を正規の勤務時間を超えて勤務させる場合等の基準を定める政令」にある「イ 校外実習その他生徒の実習に関する業務 □ 修学旅行その他学校の行事に関する業務 ハ 職員会議(中略)に関する業務 ニ 非常災害の場合(中略)、その他やむを得ない場合に必要業務」以外は、原則として時間外勤務(中略)を命じないものとする(通称: 歯止め 4 項目)と、「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法(通称: 給特法)」にある「教育職員(中略)には、その者の給料月額百分の四に相当する額を基準として、条例で定めるところにより、教職調整額を支給しなければならない。2 教育職員については、時間外勤務手当及び休日勤務手当は、支給しない。」です。これらにより、上記のイ～ニ以外の業務には 1 円も手当が支給されないのです。4% 上乗せというのは、当時の超過勤務時間が基準になっているため、現在では大赤字です。＃教師のバトンによれば、多くの教師は授業準備や生徒との関わりについては負担感を抱いていないようです。心に負担を感じているのは、むしろ会議や書類作成、部活動指導や大会引率、保護者対応など生徒との関わり以外の部分が多いようです。一方、文科省の調査によれば、教師の業務のうち、最も多くの時間をかけているのは授業準備です。いい授業をするためにはそれだけ入念な準備が必要なわけですが、これが結果として時間的な負担になっていると考えられます。したがって、働き方改革を実現するためには、心の負担軽減と時間的な効率化の両面の改革が重要です。全ての教員が、「教員免許状の必要ない仕事は致しません!」と言える日が早く来てほしいです。
 - **教採対策:** これまでの面接練習では上記の①を中心に目的を考えてきましたが、「教員の働き方改革」の目的は、上記の 3 つです。決して「教員がフラックだから仕事を減らす」という安易な受け止め方をしてはいけません。確かに一刻も早く教員を助けなければなりません。教採では文科省や中教審の考え方が根拠となります。そして、初任者としてどのような手だてがあるかを問われるので、「部活動の外部指導員や校務支援員を配置する」と答えてはいけません。何故なら、それらは校長や教育委員会の仕事だからです。新採教員の立場でできることはありません。そこで、中教審答申にあるように、「本来学校(教員)の仕事ではないもの」「学校の仕事だが、教員が担当する必要のないもの」「教員の仕事だが、精査が必要なもの」に分けて、新採教員ができることを答えてください。例えば、「自分の毎日の業務について PDCA サイクルによって効率化を図る」「授業準備をだらだらと行わない」「年間指導計画に基づき、長期休業日中にまとめて授業準備を行う」「部活動指導を顧問間で分担する」など、自分の立場でできる手だてを答えてください。言うまでもなく、手だて(方策)は具体的であることが必要条件です。また、「まだ教員になっていないので、教員の仕事がどれくらいフラックなのか、よく分かりません。1 年目は働き方改革などと言わず、生徒のためにできることは全て行います。そして、その体験に基づき、必要なら 1 年後に自らの働き方改革を実行します!」と答えて合格した先輩がいます。きっと意欲が買われたのでしょう。リスクはありますが、このように答える方法もアリです。



(2) 「GIGA スクール構想」

- **目的:**① 授業の質的改善(主体的・対話的で深い学び) ② 校務の効率化(校務分掌)
- **背景:**我が国の ICT 機器の教育への活用状況は、国際的にかなり遅れていると言われていています。そして、新学習指導要領では、授業の質的改善として主体的・対話的で深い学びが強く求められています。そのため、中教審等で個別最適化学習に向けた ICT 機器活用の必要性が強調されました。一方、自治体や地域によって ICT 機器の活用状況はまちまちであり、加えて、コロナ対策に伴い、高速通信回線の整備が緊急の課題となりました。そこで文科省は、生徒一人に1台ずつ端末が行き渡るよう、GIGA スクール構想を考えました。「教育の情報化」と言うこともあります。
- **内容:**後述の「令和の日本型学校教育」(個別最適な学び)の実現のために生徒一人に1台ずつ端末が行き渡る教育環境の実現を目指す構想です。
- **解説:**GIGA とは「Global and Innovation Gateway for All」の略で、「全ての人にグローバルで革新的な入口を」という意味が込められています。決して、1GB などの単位の名前ではありません。
- **教採対策:**目的を聞かれたときに「生徒一人に1台ずつ端末が行き渡る教育環境の実現です」と答えてはいけません。何故なら、これは目的ではなく手段だからです。目的は、あくまで上記の①と②です。特に、教採で重要なのは、①授業の質的改善(主体的・対話的で深い学び)です。これを実現するために生徒一人に1台ずつの端末が必要なのです。目的と手段を間違えてはいけません。例えば、数学でいえば、数学Ⅱの微分係数の授業で、これまでは板書したグラフ上の2点を結ぶ直線を何本も引くことで接線に近づく様子を説明したのですが、今では関数ソフトを使って直線を動かしながら説明することが可能です。さらに、教師が説明するどころか、パラメータを変化させることで微分係数の意味を生徒自身で理解できます。つまり、試行錯誤を通して定理や公式を発見したい理解したいする数学的活動が実現します。また、目的②校務の効率化(校務分掌)は、働き方改革につながります。例えば、生徒の成績を一括管理し、一旦入力すれば通知表や調査書、生徒指導要録などが自動的に作成できるようになります。生徒の模試データや成績、志望先などをデータベース化し、キャリア教育に生かすことも可能です。



(3) 「Society 5.0」

- **目的:**全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことによって、課題や困難を克服することです。
- **背景:**狩猟社会(Society1.0)、農耕社会(Society2.0)、工業社会(Society3.0)、情報社会(Society4.0)に続く新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿としました。
- **内容:**サイバー(仮想)空間とフィジカル(現実)空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会(Society)のことです。
- **解説:**GIGA スクール構想や「令和の日本型学校教育」の基盤となる考え方です。
- **教採対策:**教育との関わりは、GIGA スクール構想とほぼ同様です。GIGA スクール構想が教育界限定なのに対し、Society 5.0 は日本の社会全体の話になります。

(4) 「SDGs」と「ESD」

- **目的:SDGs:**2015年9月の国連サミットで採択された、地球規模での環境保護や人権尊重など持続可能な社会を実現するための17の目標。
ESD:SDGsに基づく教育がESDで、SDGsを実現する人間の育成が目的です。
- **背景:**環境破壊や人権侵害など、年々深刻化していく地球規模の課題を解決するために、それらを自ら



の問題として身近なところから取り組み、新たな価値観や行動の変容をもたらそうとしました。1975年10月、ユーゴスラビアの首都ベオグラードでの環境教育の専門家を集めた「国際環境教育ワークショップ」(通称:ベオグラード会議)によって作成された「ベオグラード憲章」や1977年10月の環境教育政府間会議(通称:トビリシ会議)で出されたトビリシ勧告などが基になっています。

- **内容:SDGs:** 貧困や飢餓の解消(目標1・2)、教育の充実(目標4)、ジェンダー平等(目標5)、環境保護など17項目にわたっています。(前頁の図を参照のこと)

ESD: 2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」において我が国が提唱した考え方で、ユネスコを主導機関として国際的に取り組まれてきました。

- **解説:** Sustainable Development Goals, Education for Sustainable Development
- **教採対策:** SDGsの目標4に「教育の充実」が謳われているからといって、面接で「あなたは、教員としてどのようにSDGsを実現しますか?」と聞かれたときに、「目標4にあるように、主体的・対話的で深い学びなど教育を充実させることでSDGsの実現を図ります」と答えるのでは不十分です。何故なら、ESDでは目標4だけではなく、17全ての目標の実現に寄与するものであることが求められているからです。だからと言って、一度に17の目標全部を扱うことは不可能です。そこで、17の目標全部を視野に入れながら、所属校の生徒や地域の実態に即して、幾つかの項目に焦点を当てて教育を進めていくことが重要です。そして、論文試験でも面接試験でも、**抽象的ではない具体的な手だてを述べる**ことが極めて重要です。「Think Globally, Act Locally」の考え方から考えてください。

(5)「令和の日本型学校教育」

- **目的:** 新時代の義務教育・高等学校教育の在り方(生徒の学び方や教師の在り方)を示したものです。

- **背景:** 2021年1月の中教審答申で示されたキーワードです。最新の教育時事と言ってもいいでしょう。それだけに筆記試験や論文試験に出題されたり面接で聞かれたりする可能性が高いです。

- **内容:** ① 急激に変化する時代の中ではぐくむべき資質・能力
② 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて
③ 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿
④ 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性
⑤ 「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方

★キーワードは、(1) **個に応じた指導=個別最適な学び**(=ア **指導の個別化** イ **学習の個性化**)
(2) **協働的な学び**

です。(1)の「個に応じた指導」は、何十年も前から言われていることですが、今回「個別最適な学び」という視点から再定義されました。

- **解説:** 教員の働き方改革が叫ばれている昨今ですが、これまでの日本の教育には大きな成果があったというところから考えます。つまり、**過去を全面否定するのではなく、これまでの日本型教育のよさを生かしつつ、改善すべき点は改善していくという姿勢が「令和の日本型学校教育」の特徴**です。

- **教採対策:** このキーワードは新しいですが、内容はこれまでに出てきたものの全部乗せで、新しい内容はほとんどありません。つまり、**個に応じた指導、キャリア教育、新学習指導要領、GIGAスクール構想などを集大成したものと**考えてよいでしょう。教採対策としては十分に準備してほしいですが、**万が一、面接や集団討論で話題になったときに緊張して忘れてしまったら、主体的・対話的で深い学びやICT機器活用など、新学習指導要領に関する内容を答えておけば外さないで済みます**。また、上記のとおり、過去を全面的に否定しているわけではないので、「これまでの板書による教室での一斉指導は全然ダメ」というのではなく、一斉指導にもいい点はたくさんあるが、それだけだった点がこれまでの課題だというところから考え方が変わります。そこで、これからは、**学び方や進路など生徒一人一人の個性を生かした指導や生徒間で学び合う学習(主体的・対話的で深い学び)にシフト**することが強く求められています。その際、**ICT機器活用も重要**です(GIGAスクール構想、Society5.0)。したがって、例えば、論文試験や集団討論のテーマとして「**個に応じた指導**」が出されたとき、昔と今では書き方や議論が違います。昔なら、言葉通り「**生徒一人一人を生かした指導**」ということですが、今は、そのことにプラスして、**主体的・対話的で深い学びやGIGAスクール構想など、上記のキーワードを意識した書き方や答え方**になります。



★ 今年の受験生は8月に2次試験、10月上旬に最終合格発表です。したがって、9月から3年生に向けた教採指導をスタートします。その最初が、前述の「教採ガイド」です。動画を見て、準備を始めましょう!

★教職課程センター小金井相談室は、全力で皆さんの合格を応援します。頑張ってください!

